

6. 主要施策

(1) 主要施策

岩沼市にふさわしいバス交通網の実現に向け、域内の交通機関相互の連携を図りながら、これまでの市民バスの既存路線の定着性を踏まえつつ、バス路線網の見直しや、利用促進などのバス交通を中心とした各種施策に取り組みます

本計画に位置づける主要施策と具体的取組みは以下のとおりです。

主要施策	具体的取組み
1) 効率的で利便性の高い路線網の形成	<p>ア バス交通網の再編</p> <ul style="list-style-type: none">①バス路線網の見直し②ダイヤの見直し③利用料金の見直し <p>イ 保有車両の検討</p> <ul style="list-style-type: none">①小型車両導入の検討②車両のユニバーサルデザインへの配慮 <p>ウ 効率的運営に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none">①料金以外の多様な収入の確保②委託方法の見直し
2) 地域の特性に応じた持続できる交通体系づくり	<p>ア 地域の特性に応じた持続できる交通体系への見直し</p> <ul style="list-style-type: none">①デマンド交通の検討・導入
3) 域内の公共交通機関相互の連携	<p>ア 他交通機関等との連携</p> <ul style="list-style-type: none">①他交通機関との相互連携②地域との連携強化
4) 新たな利用促進と公共交通利用への意識啓発	<p>ア 利用促進およびサービス向上策の検討、実施</p> <ul style="list-style-type: none">①わかりやすい時刻表・路線図の作成、配布②無料おためし期間の検討③運行案内表示、ロケーションシステムの検討④バス交通利用の提案 <p>イ 利用啓発</p> <ul style="list-style-type: none">①公共交通教育の実施②イベントの開催（乗り方教室、試乗会）③環境や健康を意識したバスの利用啓発

市民バスの見直しに向けた主要施策の内容は以下のとおりです。

1) 効率的で利便性の高い路線網の形成

ア バス交通網の再編

●施策の背景とねらい

現在の市民バスの路線網は、これまで各地区からの要望等に応え、繰り返し変更を加えてきたことから、複雑で分かりにくく、1便あたりの運行時間も長い状態となっています。利用実態調査等からは、便数の増加、運行時間帯、行き先がわかりづらいなどの改善に関する意見が多く寄せられ、利用者の移動実態と市民バスの運行体系が合っていないため、利用したくても利用しづらい状況にあります。さらに、社会情勢により高齢化が進み、運転が困難になる方が増えることが見込まれることから、市民バスの重要度が高まることも想定されます。このため、高齢者にやさしく、使いやすいバス交通をめざして、市民バス交通網の再編を行います。

●具体的な取り組み

①バス路線の見直し

岩沼駅を起点とした中心部の循環路線と、郊外から中心部へ接続する支線を合わせた運行に見直すことで、便数の充実と路線の単純化を図ります。さらに市域を東西に結ぶ横断路線を新たに設け、東西の移動ニーズにも応えます。また、利用状況や地域の移動実態を踏まえて、利用の少ない区間については、効率的に柔軟に対応できるデマンド交通を検討します。

②ダイヤの見直し

利用実態調査等による市民の移動実態や意向を踏まえ、駅、公共施設、病院等への接続や、日常生活における移動時間帯等を考慮し、運行経費との調整も図りながら運行事業者と十分協議を行い、効率的で利便性の高いダイヤの見直しを行います。また、ダイヤ編成はスクール優先ではなく、日常生活の足の確保を基本としたものとします。

③利用料金の見直し

市内のバス交通網は、循環路線、支線、デマンド交通で構成するため、これまでよりも乗り継ぎが多く発生することが想定されます。現状では乗継料金がないことから、乗り継ぎへの抵抗感を解消するため、負担の少ない簡素な料金体系を検討します。

●期待される効果

効率的でわかりやすいバス路線へ見直しを行うことで、高齢者にやさしく、使いやすいバス交通の実現が期待されます。

●課題・留意点等

路線、ダイヤの見直しは、利用実態に応じた定期的な見直しが必要であり、年間を通して利用状況の把握に努める必要があります。利用状況の適切な把握には、乗降センサーの活用など需要状況を見極めるための手法の検討が必要です。また、見直し時は、利用者に大きな混乱が生じないよう周知の徹底に努める必要があります。

イ 保有車両の検討

●施策の背景とねらい

現在の市民バスは、市が保有する小型と中型のバス車両で運行していますが、バスの定員と比べて実際の利用者数が少ないという状況と、現在の車両では道路幅の制限から運行可能な道路が限られるなどの課題があります。

また、今後も高齢化の進展が予想されていることから、低床バスやノンステップバス車両の導入等により、高齢者や障がい者等の利便性を高めることや安全性を確保するための検討も必要です。

●具体的な取り組み

①小型車両導入の検討

路線や運行時間によって利用者数に幅があることや、道路幅の制限、環境面への配慮等を踏まえ、最適な車両サイズを検討します。

②車両のユニバーサルデザインへの配慮

高齢者や障がい者等の利用に配慮し利便性を高めるため、低床バスやノンステップバス車両の導入等を検討します。

●期待される効果

車両の小型化を図ることで、需要に応じたきめ細かな対応ができます。また、ユニバーサルデザインに配慮することで、年齢等を問わず、利用しやすいバスとなり、移動の利便性が向上するほか、乗降時の転倒事故防止などの安全性が確保されます。

●課題・留意点等

車両の購入にあたっては、管理上の問題から車検時期や更新時期が重ならないように段階的な導入する等の検討が必要です。さらに、利用状況や地域の移動実態を的確に把握し、利用実態に合わせた車両の選定が求められています。また、ユニバーサルデザインに配慮した車両は、通常のバスに比べ座席数が少ない場合があることなど、車両の特徴を踏まえなければなりません。

ウ 効率的運営に向けた取組み

●施策の背景とねらい

市民バスの運行経費は人件費の高騰などから上昇傾向にあるものの、利用者数の推移に同じく収入は横ばいとなっています。運行経費の軽減を図りながら持続可能な運営を行うためには、料金以外の多様な収入を確保することが求められています。また、効率的で柔軟な運営や適切なサービス提供ができる委託方法の見直しについて検討する必要があります。

●具体的な取組み

①料金以外の多様な収入の確保

料金以外の収入として、現在の市民バスでも有料広告を掲載していますが、運行経費の軽減を図るため多様な収入の確保を検討します。車内広告の掲示方法の工夫、時刻表やバス停表示板への新たな広告掲載など、他の導入事例を参考に多様な広告手法の活用を検討します。

②委託方法の見直し

利用者の利便性を高めながら効率的な運営を行うためには、利用需要にあったサービスの提供や課題の解消を図れる柔軟な運営が求められます。委託方法について、事業者の優れた提案を活用できるプロポーザル方式の導入など、選定手法や委託方式の検討を進めます。また、近年のバス運営では、運転士の確保、安全対策等が事業者の課題となっていることから、長期契約の導入など、事業者が安定的に運営するための体制を整えられる委託方式を検討します。

●期待される効果

料金以外の収入を確保することで、運行経費の軽減を図り、効率的な運営が期待できます。また、委託方法を見直すことで効率的な運営に加え、利用需要を捉えた柔軟な運営が見込まれます。

●課題・留意点等

有料広告については、バスの車両に掲載していただく企業の発掘が必要となります。委託方法については、効率性のみを優先させることなく、運行の安全性や安定性の確保を十分に踏まえた総合的な検討が必要です。

2) 地域の特性に応じた持続できる交通体系づくり

ア 地域の特性に応じた持続できる交通体系への見直し

●施策の背景とねらい

利用実態調査等から、利用が少ない区間と時間帯があり、地域の特性に応じた交通体系となるよう、効果的かつ効率的な運行としていくことが求められます。

●具体的な取り組み

①デマンド交通の検討・導入

利用者が少ない地区においては、効率的な運行となるようバス運行を補うためにデマンド交通の導入を検討します。

また、他市の先進的な事例では、路線バスが運行していない地域において、移動手段の確保のため自主運行バスを運行し、路線が長い、バス停が遠いなど様々な課題を解決するため、市と地域との協働事業として地域協働運行バスの運行が行われています。

●期待される効果

地域住民にとって利用しやすい移動需要に合った移動手段を継続的に行うことが期待できます。

●課題・留意点

デマンド交通の導入は、試験運行による利用実態の把握を行うことで、利用実態と地域要望を確認しながらデマンド交通を導入していきます。また、デマンド交通の利用状況を確認するため、運行事業者と協力しながら、地域住民との意見交換、利用者数の調査を継続的に実施し、定期的な見直しが必要となります。

デマンド交通の導入にあたっては、利用方法等の周知を図るため、対象地区において説明会等が必要になります。

3) 域内の公共交通機関相互の連携

ア 他交通機関等との連携

●施策の背景とねらい

市内で運行している鉄道やタクシー、路線バスなどの各交通機関と連携し、市民が使いやすい交通網を構築していく必要があります。

●具体的な取り組み

①他交通機関等との相互連携

鉄道やタクシー、路線バスなどの役割を明確にし、各交通機関の接続や相互利用の検討を行います。さらに、各他の交通機関等と定期的な情報交換を行い、相互利用の案内や提案などを検討し、公共交通の充実に向けて連携、調整を行います。

②地域との連携強化

現在、市がタクシー事業者やバス事業者と締結している高齢者や児童・生徒等の緊急時の通報や車内への保護を行う“見守り協定”と同様に、地域との連携を強化し、地域の安全性を高める活動について検討・調整を行います。その中で、車両へのAEDの設置等も含めて検討していきます。

●期待される効果

交通機関相互の連携強化により、利用者の利便性が向上するとともに、公共交通への安心感の向上が期待できます。

●課題・留意点等

他の交通機関等との連携を図る必要があります。

また、高齢化に伴って移動の支援が必要な方が増えていくため、福祉輸送等の形態が増加すると予想されますので、市民バスの役割を明確にした上で、福祉輸送の事業者との連携を図ることも必要になります。

4) 新たな利用促進と公共交通利用への意識啓発

ア 利用促進およびサービス向上策の検討、実施

●施策の背景とねらい

バスの利用実態等を踏まえた路線網の見直しに合わせて、バス路線や運行時間の周知を図るとともに、利用促進に向けた継続的な取り組みが必要となります。また、道路状況や天候によって運行に遅れが生じるなど、バスの待ち時間がわからないことも利用しづらい原因であることから、バスの運行状況の利用状況を即時に把握し、適切な情報の提供と案内が求められています。

●具体的な取り組み

①わかりやすい時刻表・路線図の作成、配布

路線網の見直しに合わせて、わかりやすい時刻表、路線図を作成し、配布を行います。さらには、新たな路線網の利用に慣れていただくための広報活動やイベント開催も合わせて検討します。

②運行案内表示、ロケーションシステムの検討

路線網の見直しに合わせて、バス停の案内表示やバス車両の行き先表示等について、市民の誰もが使いやすいバスの運行となるよう、色分けにより視覚的に認識できる等の工夫を施します。また、利用者にバスの運行状況を把握する手段として、バスのロケーションシステムの導入を検討します。

③バス交通利用の提案

通院や買い物等日常生活の移動手段のほかに、交流活動や学習活動等にも利用できるバスのルートを提案します。

●期待できる効果

バスの利用に対する分かりづらい利用しづらいといった抵抗感や不安感を軽減させることができます。

●課題・留意点等

時刻表、路線網の作成については、利用者が必要としている情報をわかりやすく提供することが重要になります。また、路線網の見直しに合わせて定期的に情報を更新する必要があります。

イ 利用啓発

●施策の背景とねらい

移動手段を持たない高齢者等の生活の足を確保するための公共交通を維持していくためには、安定的な利用が必要であり、日常生活の移動手段としてバスの利用を促すために、一人ひとりの意識啓発を行う必要があります。また、利用実態調査から市内の主要施設への移動手段として車での移動が半数以上を占めており、自動車への依存が高いことが見られます。自動車での移動を控えることで、環境面や健康面等の様々な効果が期待できること等の周知が必要となります。

●具体的な取り組み

①公共交通教育の実施

将来の利用者となる子どもたちに、バスの移動を身近に感じてもらうため、小中学生を対象に、土日や夏休み等の期間に市民バスを無料で利用できる、土日祝日及び長期休暇の無料制度を検討します。このことで、バスの利用促進が図られるほか、市内の教育施設や文化施設への利用を促し、子どもたちの活動の場を広げた学習機会を増やします。

②イベントの開催（乗り方教室、試乗会）

バスを気軽に利用いただくため、町内会、教育機関、介護福祉施設など各種団体を対象に、市民バスの乗り方教室や試乗会を実施します。市内を運行する実際の市民バスを用いて、市民バスの乗り方などを実際に乗車しながらわかりやすく説明します。

③環境や健康を意識したバスの利用啓発

自動車での移動を控えることで、環境面や健康面等の様々な効果が期待できることでの利用啓発を行います。

●期待できる効果

公共交通を選択し、自動車への過度な依存を回避することで、環境負荷の軽減、市民の健康増進効果等が期待されます。

●課題・留意点等

継続的な実施と、その方法について、検討が必要です。